

JOCA Kyushu だより



特定非営利活動法人九州海外協力協会
Japan Overseas Cooperative Association of Kyushu

前会号では田植えの終わった田んぼから蛙の合唱の便りをお届けしましたが、今回は黄金色に実った稲刈りの時期になり、季節の移ろいの速さを実感しながら、筆を執っています。3月の東日本大震災の痛手から立ち直りつつある東北地方、日本ですが、まだまだ支援を必要とされている被災者の方々がいらっしゃいます。そんな中、NPO九州海外協力協会は、若者を主体とする復興支援ボランティア「九州協力隊」を宮城県気仙沼市に派遣しました。ここ数年、若者の内向き思考が話題にされるなかであって、「九州協力隊」に参加した若者達の活動には力強いものが感じられました。参加前の控えめな物腰が、参加後は物事を成し遂げた達成感と自信に満ち溢れ、日本の若者も機会を与えれば力を発揮できることが証明され、嬉しく思っております。未知の世界への挑戦、経験が人を大きく育ててくれます。10月から始まるJICAのボランティア募集では、一人でも多くの人達に経験の場が与えられるような説明会にしたいと、職員一同九州各県を飛び回る予定です。事務局長 花田

JOCAインターンでの経験を通して・・・8月2日から9月14日まで、6名の大学生がJOCA博多事務所と北九州事務所にインターンとして活動を展開してくれました。



境 美保子 (福岡女学院大学 3年)

「JICA研修員との交流プログラム」のお手伝いをさせて頂きました。レクレーションを通して、研修員の方との距離も縮まり、とても良い雰囲気でした。この様子からコミュニケーションは言葉だけではないと改めて思いました。他にも高校生実体験プログラムやミーティングなど、貴重な体験ができました。

博多事務所
8/2~8/10

川崎 拓郎 (福岡工業大学 1年)

イベントのポスター作成や、JICA九州での国際交流プログラムへの参加など、短い期間で密度の濃い経験をさせて頂きました。交流プログラムでは、日本と海外の距離が決して遠くないことを実感しました。また、自分自身の課題を多く発見し、これからの大学生活に活かして社会人として必要な力をしっかりと身につけていきたいです。

博多事務所
8/29~9/7



博多事務所
9/5~9/14

博多事務所
8/22~8/31



尾形 明日香 (西南学院大学 3年)

私は人前で話すことが苦手だったのですが、出前講座や国際体験プログラムなどに参加して、自分の弱点を克服することが出来たのではないだろうかと思えます。普段の学生生活では経験できないことから、どれほど私を成長させてくれた場であったかは、言葉では言い表すことができないほどです。



橋口 知世 (福岡女学院大学短期大学部 1年)

沢山の方に会うことができたことが大きな収穫だったと思います。元々、国際協力には興味がありましたがこの仕事を通して更に国際協力の難しさや大切さを知り、何もかも新しく学ぶことばかりでした。学生と社会人との違いをしっかりと再認識し、とても内容の濃い充実した研修をさせていただきました。

北九州事務所
8/15~8/24

児玉 えり (福岡大学 3年生)

学生生活では滅多にない貴重な体験をさせていただきました。プログラム終了後の会議では、次のプログラムがより良いものになるように、お互いに改善点や伸ばしていくべき点の話し合いを重ねていらっしゃいました。何を進めるにも必要なことですが、九州海外協力協会では国際協力への「情熱」が原動力だと感じました。



中西 未来 (北九州市立大学 3年生)

研修員との交流プログラムに参加したり、センター訪問を見学させて頂いたり、JICA九州センター内の展示の一部を担当させて頂いたり非常に貴重な経験ができました。多くのことを学ぶことができ、私にとって大きな収穫になったと思います。



北九州事務所
9/8~9/17

東日本大震災災害復興支援協力隊特別プログラム「災害ボランティア九州協力隊」35名帰福

この度、団長を務めさせていただきました福永です。私は福岡市の災害復興支援「ふくおか元気応援隊」の第2期（5月23日～28日）に参加し、その経験を基に、私たち（NPO九州）ができることを模索して参りました。大学生や専門学生を対象にJICAボランティアセミナー（青年海外協力隊体験談発表）などを行っていた際、東日本大震災後、世界から多くの援助があったのは、海外で国際協力が続けてきた日本と世界の繋がりがあったからこそ、これからも国際協力も続ける必要はあるが、「私たちが今、日本でできることをしたい！」という学生さんの声が残っていました。そこで、若い福岡の学生さんが九州・福岡からでも復興のお手伝いの機会を作りたいと、青年海外協力協会（JOCA）のネットワークが活き、九州から東京、東京から宮城県気仙沼「大島」へと繋がったのです。震災後からなかなか見えなかった九州、福岡からできることが、災害ボランティア九州協力隊として実現したのです。学生と社会人の世代を超えたとても素晴らしい仲間ができました。では、九州協力隊の内容についてご紹介いたします。

<バスで24時間移動>



<活動の様子>



大島災害対策本部「おばか隊」と
災害ボランティア九州協力隊一同

二日目の活動現場にて

「おばか隊って」・・・（説明）。

3・11の震災後、家は基礎しか残っていない。最愛の家族も失った。海の幸や観光で生活してきた、収入源も失った。自らが被災者なんて悲しむ時間や涙する日もなく、休む暇なんてない、最悪な状態で残ったことは一つ。大島を「緑の真珠」と呼ばれていた、あの頃に戻すこと。もう、ばかになつてしまわないとやっつけていけない、ばかではできない復興活動、そんな思いが一つになって集まった大島のヒーロー達がいる。

災害ボランティア九州協力隊 宮城県気仙沼市大島

片道24時間という距離にもめげず、福岡・九州から大学生24名、社会人9名、スタッフ2名で宮城県気仙沼市大島の被災区にて災害復興支援活動を行いました。

活動初日はグラウンドの除草作業でした。大島に残ったグラウンドは全て仮設住宅が建てられており、残った広場はこのグラウンドだけでした。草刈機部隊と5班に別れ、朝の9時から、夕方16時までの間作業を行いました。

2日目。まさに本番の活動でした。流されて来たヘドロ等で泥沼と化した田んぼでの瓦礫撤去作業でした。日常生活で使用していた食器や寝具、住んでいた家の屋根や壁、車、バイクなどが、手付かずの状態が残っていました。カマで草刈りながら、作業スペースを広げ、ボール等で瓦礫の解体、壊された家の壁や、瓦、大木などを協力して撤去し、それらの物を分別して、トラックで運ぶなどの活動でした。この日は、全員が協力し合い、自らできることを探して、一致団結した日になり、絆や繋がりが、協力などの大切さを感じました。

最終日は、大島災害対策本部が決めた、震災後初めてのボランティア活動休暇の日となりました。しかし、対策本部の細川さんは、休みを返上までして、震災直後、大津波が襲って来た時の状況を話していただき、その後の復興活動（おばか隊の活動）についてお話いただきました。

（活動を終えて参加者からのお言葉）

人と人との絆の大切さを改めて感じ、出会いに感謝です。半年経った今でも瓦礫がたくさん残っていたことに驚きました。現地の「おばか隊」が行っている復興活動を思うと、日本全体でサポートが必要だと思いました。やはり現地に行つて、活動することにごく意味があり、これからの人生に、被災地で見た事、聞いた事、感じた事を忘れる事なく、ポジティブに生きていきたい。

参加された皆様が不安の様子で参加され、短い6日間で生まれ変わった様に生き生きとした姿を私たちは見ることができ、一生忘れられない活動になりました。まだまだ復興への道のりは厳しい状況ですが息の長い活動を模索しつつ、多くの方々にご支援・ご協力を頂きましたこと、この場をお借りして心よりお礼申し上げます。（武井）



平成23年度国際理解教育推進事業
Inアクロス福岡 「遊んで、学ぼう！
今日の**アフリカー**！」
聞いた！考えた！遊んだ！学んだ！

小学生30名と保護者20名が参加してくれました！元青年海外協力隊の講話でアフリカの暮らしを聞き、子どもの仕事、バケツで水運びを体験しました。重かったです。そしてアフリカの遊びクバーラでアフリカの人と一緒に遊びました。そして、私達にできることを考え、給食の好き嫌いを無くし、水の無駄使いをしないなど、自分のできることをしようと思いました。今日は、たのしかった×100です。



暑さも吹き飛ばすほど集中でき、またクバーラで、学校の友達と遊びたいと思いました。今日は皆でたくさん学んだ日でした。（福永）

北九州国際体験プログラム @JICA九州センター

毎年、夏休みに実施されている北九州国際体験プログラム（旧インターナショナルキャンプ）が8月27日（土）JICA九州で実施されました。北九州市内の中学から26名の参加があり、世界の遊び「クバーラ」、ワールドランチなどを外国からの研修員と体験しました。JICA九州は、午後からのプログラム「地球生活体験学習」を担当。5名の協力隊OVの方々と、異文化体験クイズやゲームを実施しました。聞いたことのない外国の言葉を使い、現地の買い物を体験するコーナーでは、一生懸命コミュニケーションをとる中学生がとても印象的でした。（後藤）



展示「世界の学校」 @JICA九州

JICA九州の大展示スペースに7月から『世界の学校』をテーマに世界各地にある学校・学校事情や世界の子どもの様子を展示しました。協力隊のOBの方にも声をかけ、たくさんの学校の写真や子ども達の笑顔の写真が集まりました。展示を通して、少しでも多くの人が、世界の状況を知り、考えていただくきっかけとなればと思います。次回10月からは、JICAボランティア秋募集に合わせ、テーマを「協力隊」とし、ただいま準備中です。JICA九州にお越しの際は、ぜひチェックしてみてください。（森川）

平成23年度大分県ボランティア家族連絡会

9月11日（日）に別府市の「豊泉荘」で大分県ボランティア家族連絡会が開催されました。今年は昨年度よりも多い12家族19名の留守家族の方々が出席して下さいました。OVの体験談や、任国を訪ねられた方の報告はもちろんのこと、地元にいる留守家族同士のつながりの場として、連絡先を交換されたりしているのを拝見し、とても意義のある会だと実感させられました。今後も九州各県で開催されますので、是非ご参加いただきたいと思います。（田中）



JOCA活動報告 7月～9月



大分県日田市「クバーラ」フィーバー！！

日田といえば、お酒、焼きそばが有名ですが、今後、追加されそうなものがあります。それは、クバーラ（マダガスカルの遊び）です。6月から各公民館がいろいろなイベントやプログラムに合わせてクバーラを取り入れてくれています。そんなクバーラフィーバが続く中、日田大会をやろうという話が持ち上がりました。これまで、学校単位で行われてきたクバーラ大会は、今回、市という大きな規模で行われることになりそうです。この大会の開催が実現し、定着すれば、日田の名物は、クバーラということになるかもしれません。どうぞ期待です！（田淵）

離任のご挨拶



前会長
立山 誠氏

福岡県のOB会長を6年あまり勤めさせて頂きました。会長就任当初は全国のOB会長でも最年少で不安もありましたが、OVの皆様のご協力により、長期にわたり活動することができました。離任までの間で、一番の思い出になったのはこの協力隊、OB会活動を通じて得た「ご縁」で、東日本大震災復興支援として災害ボランティア活動を行ったことでした。この経験で再度協力隊に参加してよかったと実感できた時でした。これからも引き続き電力の安定供給に尽力していく所存です。対馬には3年間の予定ですので、お近くに來られた折にはお立ち寄りください(笑)。長きに渡り本当にありがとうございました。

着任のご挨拶



新会長
小田 哲也氏

皆様、初めまして。平成9年度1次隊コンゴビアへ青少年活動で派遣されました小田哲也と申します。現在是不登校、ひきこもりなどの子ども達の笑顔と元気を引き出したい、箱崎自由学者ESPERRANZAのフリースクールを立ち上げて、日々頑張っております。この度、立山会長に代わり、OB会長として就任し、まだ右も左もわからない状況ですが、個性豊かなOB・OGの皆様が今まで以上に居心地がいい会を目指し、福岡県らしい活動が始まると楽しいかなと思っています。帰国して間もない隊員の皆さん、新しいアイデアを！ベテラン隊員の皆さん、人生の先輩としてのアドバイスを心よりお待ちしております。グラシアス(スペイン語であります)とつ)

料金後納
郵便

φ×11

特定非営利活動法人九州海外協力協会

〒812-0011

福岡市博多区博多駅前3-10-34 Mビル3号館

2F AB号室

TEL:092-415-6536

E-mail:ngoqshuint@joca-kyushu.or.jp

行事のご案内

- 10月1日～11月7日・・JICAボランティア募集中
- 10月20日・・協力隊ナビ in 博多事務所
- 10月30日・・森と私たち in 井原山
- 11月5/6日・・地球市民どんたく in アクロス福岡
- 11月2日・・クバーラ講習会 in 日田
- 11月12日・・長崎ボランティア家族連絡会
- 11月25日～12月7日・・JICA青年研修事業(太洋州)
- 11月26日・・宮崎ボランティア家族連絡会
- 12月3日～1月10日・・世界をつなぐ写真展 in 福岡空港
- 12月11日・・佐賀ボランティア家族連絡会

～JOCA Kyushuもつづく～

JOCA Kyushu は、ホットなイベント開催などの案内をつぶやいていきます！是非フォローしてください！
検索は@JOCACKYUSHU

発行 特定非営利活動法人九州海外協力協会

〒812-0011
福岡市博多区博多駅前3-10-34 Mビル3号館 2F
AB号室
TEL:092-415-6536
FAX:092-415-6518
HP:http://www.joca-kyushu.or.jp/
E-mail:ngoqshuint@joca-kyushu.or.jp

